

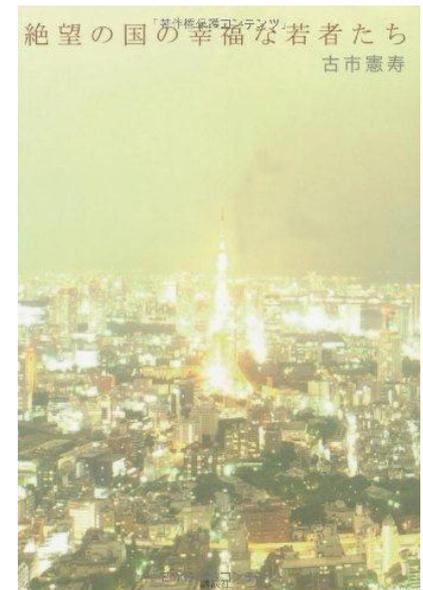
# なんで宇宙なんていくの？

古市憲寿

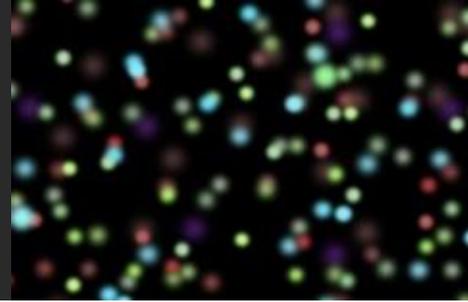
3 Feb 2013  
Kyoto University

# 喧嘩を売りにきたわけではありません

- 古市憲寿
- 1985年東京都生まれ、東京大学大学院博士課程、慶應義塾大学SFC研究所訪問研究員(上席)、有限会社ゼント執行役
- 社会学を専攻(起業家論、若者研究、北欧育児政策)
- 2003年 慶應SFCにAO入試(詩)で入学
- 2005-2006年 ノルウェーに留学
- 2007年- 東京大学大学院に入院
- 2010年 『希望難民ご一行様』(光文社新書) 2011年 『絶望の国の幸福な若者たち』(講談社)を書いて、なんだかメディアが若者に詳しくそうな人、と思ってくれる



# 高まる「宇宙」人気？



## 国と宇宙

2008年「宇宙基本  
法」施行  
2013年情報収集衛  
星レーダ4号機  
ISS日本人宇宙飛行  
士滞在(2009若田、  
2009-2010野口、  
2011古川、2012星  
出)

## 文化と宇宙

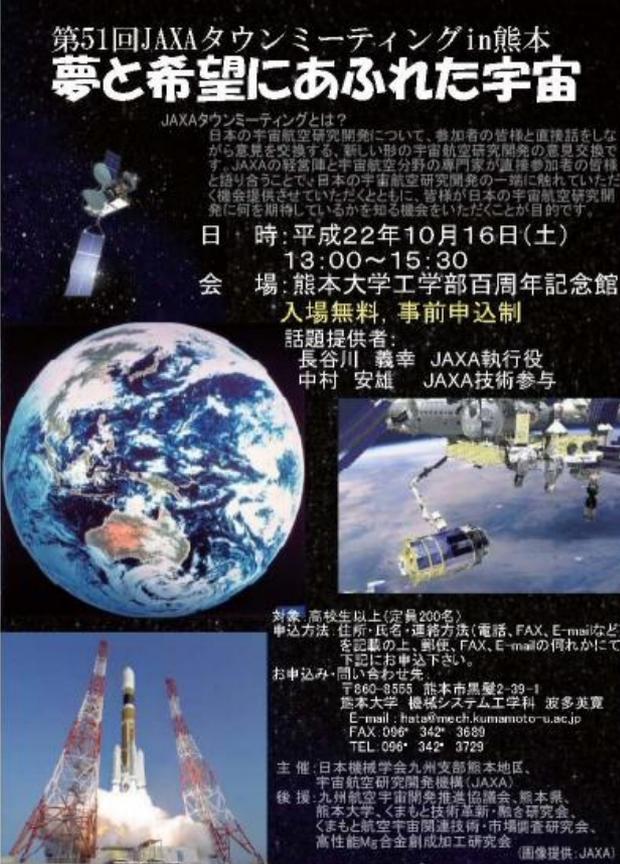
映画が3本も作られた  
「はやぶさ」  
『宇宙兄弟』のヒット  
「宇宙戦艦ヤマト  
2199」(32年ぶりアニ  
メ化)

## 商業と宇宙

民間宇宙旅行プロ  
ジェクト(スペースX社、  
ボーイング社、ヴァー  
ジン・ギャラクティック  
社...)  
2015年サラ・ブライト  
マン宇宙へ

# だけど...

- 現代日本では宇宙開発の正統性を調達するのが難しいのではないか
- 特に、有人宇宙活動プログラムにはどんな意味があるのか？
- 「すべての人が、夢と希望、そして誇りを持てる社会を実現するために、JAXAは科学と技術の限界に挑戦しつづけます」(JAXAウェブサイト)
- 若年層の生活満足度、幸福度の上昇 (JAXAが頑張らなくても、別にみんなもう生活に満足してしまっている)
- 希望学「76.5%が希望を持っている」(じゃあ、希望学いらなかったんじゃない...)



第51回JAXAタウンミーティングin熊本  
夢と希望にあふれた宇宙

JAXAタウンミーティングとは？  
日本の宇宙航空研究開発について、参加者の皆様と直接話をしながら意見を交換する、新しい形の宇宙航空研究開発の意見交換です。JAXAの経営陣と宇宙航空分野の専門家が直接参加者の皆様と語り合うことで、日本の宇宙航空研究開発の一端に触れていただく機会提供させていただきますとともに、皆様が日本の宇宙航空研究開発に向を期待しているかを知る機会をいただくことが目的です。

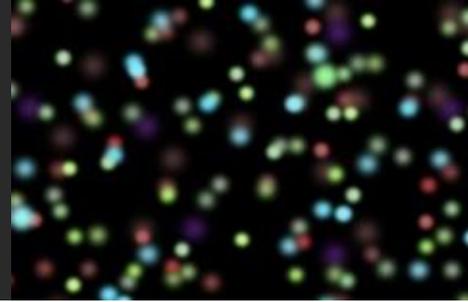
日 時：平成22年10月16日(土)  
13:00~15:30  
会 場：熊本大学工学部百周年記念館  
入場無料、事前申込制

話題提供者：  
長谷川 義幸 JAXA執行役員  
中村 安雄 JAXA技術参与

対象：高校生以上(定員200名)  
申込方法：住所・氏名・連絡方法(電話、FAX、E-mailなど)を記載の上、郵便、FAX、E-mailのいずれかにて下記にお申込下さい。  
お申込み・問い合わせ先：  
〒860-0855 熊本市黒髪2-39-1  
熊本大学 機械システム工学科 波多美章  
E-mail: #ata@mech.kumamoto-u.ac.jp  
FAX: 096\* 342\* 3689  
TEL: 096\* 342\* 3729

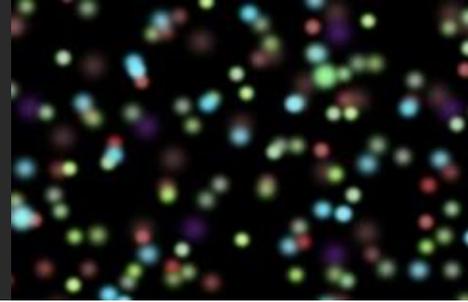
主催：日本機械学会九州支部熊本地区、  
宇宙航空研究開発機構(JAXA)  
後援：九州航空宇宙開発推進協議会、熊本県、  
熊本大学、くまもと技術革新・創生研究会、  
くまもと航空宇宙関連技術・市場調査研究会、  
高性能Mg合金創成加工研究会 (画像提供: JAXA)

# 夢と現実の狭間



- 夢と現実の混在する宇宙開発戦略本部「宇宙基本計画」(2013年)
- 「有人宇宙活動は、**国民に夢を与える**」
- 「有人か無人かという選択肢も含め**費用対効果**や国家戦略として実施する意義等について、外交・安全保障、産業競争力の強化、科学技術水準の向上等の様々な観点から、検討」**「不断の経費削減**に努める」
- 夢見ることが大好きな宇宙屋さんとインターネット屋さん(人類の無限の発展可能性、「近代」を体現)
- 「なんで宇宙なんていくの？」という問いに、どんな風に答えることができるのか

# 宇宙開発の歴史



鈴木一人『宇宙開発と国際政治』岩波書店、2011年

- ソ連：核弾頭を搭載した大陸間弾道ミサイルの頓挫とスプートニク・ショック(大気圏に再突入が必要なミサイルと違い、人工衛星であれば宇宙空間に放出するだけでいい)
- アメリカのアポロ計画：巨大公共事業、軍事産業への技術転移、「強いアメリカ」への熱狂と財政問題のクリア
- 宇宙開発の意味1：「ハードパワー」軍事技術開発、安全保障
- 宇宙開発の意味2：「ソフトパワー」人々に希望を与えると同時に国家のプレゼンスを示す
- 宇宙開発の意味3：「役に立つ」GPS、産業振興

# 現代における宇宙開発の難しさ

- 冷戦が終わり「自分たちが一番」というアピールをする必要がなくなった米ソ
- 憲法9条を有する平和国家・日本では、長らく「安全保障上の理由で宇宙開発が必要」という発想が希薄だった
- そこで持ち出される「ロマン」:しかし2m四方の小さな探査機が、どこか特に浮かんでいる小さな石の塊から粒子を採取してきただけで日本中が熱狂
- 「はやぶさ」人気は逆説的に、日本における有人宇宙プログラムの不必要性を証明
- フロンティア精神ではなくて、プロジェクトX的物語による人気(宇宙である必然性は?)

# 止まってしまった時間？

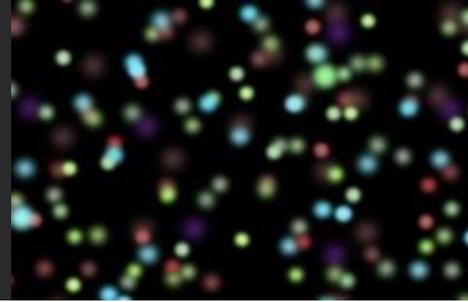
「若者の病理と文学」『Men's JOKER』2012年2月号

- 「70年代のどこかで高度成長が終わり、80年代のどこかで日本社会の成熟はほぼ達成されて、そのあと文化的に大きな変化は何も起こっていない」(村上龍)

平野秀秋・中野収『コピー体験の文化』1975年

- 1970年代の「若者論」も現在と同じ地平にある。「カプセル人間」論...情報化社会が価値の多元化を促進し、イデオロギーの解体を導いた。若者たちは深夜ラジオなどの情報機器を通じて外部とつながっている。
- 確かに街の風景は70年代と大きく変わっていない...？

# 宇宙の時間も止まったまま？



宇宙開発委員会長期ビジョン特別部会「我が国の宇宙開発に関する長期ビジョン」(1977年)

- 1980年からの「第二期宇宙実用時代」**現在の航空機のように**人や物が宇宙に飛び、もはや宇宙は特別な場所ではなくなる。日本が有人宇宙飛行船を開発することにも大きな意義

宇宙開発委員会長期政策懇談会(1987年)

- 90年代より日本も有人宇宙活動に乗り出すべきで、日本版スペースプレートの開発を提言。**2000年代には日本独自の宇宙ステーション、宇宙工場を建設**。「財源も含め、より幅広い考え方で資金の確保に努める」

「社説 宇宙開発と日本の責任」『朝日新聞』1987年5月29日

- 「日本の多くの技術が**世界の最前線**に来てしまった」「かつて世界一の金持ち国であったアメリカがしたように、**日本はいまや困難で金のかかる技術開発を世界に先駆けて推進**し、その果実を世界各国に提供する立場に立っている」

# バブル期の夢たち

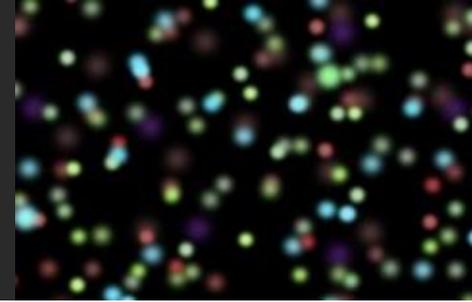
- 大成建設「X Seed-4000」800階建て高さ4000m、100万人が生活(1990年)
- 尾島俊雄研究室「東京バベルタワー」高さ1万m、山手線内の敷地に建設、3000万人が暮らす(1992年)
- 清水建設「TRY2004」高さ2004m、100万人が生活



大成建設



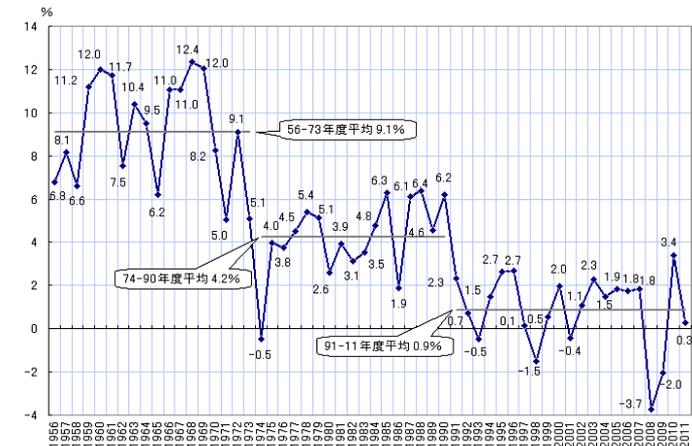
清水建設



# 理想の時代、夢の時代、虚構の時代

- 社会学者見田宗介の時代区分
- 1945年から1960年「理想の時代」(未だないものを追い求めた時代)
- 1960年から1975年「夢の時代」(高度成長が現実のものになった時代)
- 1975年から1990年「虚構の時代」(夢の限界が露呈され、素朴に夢を追うことは難しくなったけれど、個人レベルでは消費による自己実現。消費社会)

経済成長率の推移



(注) 年度ベース、93SNA連鎖方式推計。平均は各年度数値の単純平均、1980年度以前は「平成12年版国民経済計算年報」(63SNAベース)、1981～94年度は年報(平成21年度確報)による。それ以降は、2012年7-9月期2次速報値(2012年12月10日公表)。

(資料)内閣府SNAサイト

# 「大きな物語」の終わり

- 近代化がある程度達成されると、「経済的に豊かになる」「今日より明日は良くなる」という「物語」を誰もが素朴に信じられなくなる
- 1970年大阪万博「人類の進歩と調和」／2005年愛知万博「サツキとメイの家」
- 1973年全国交通安全運動標語「せまい日本、そんなに急いでどこへ行く」
- 「経済成長すれば幸せになる！」という社会共通の夢が世界的に頓挫した1973年オイル・ショック
- オイルショック後も安定成長が続いた日本社会

# たった一度きりのボーナス

- 日本が戦後復興を成し遂げ、高度成長期を実現できた秘密
- 追いつき型近代化: 敗戦国により経済後進国になったため、他国の成功と失敗をまねることができた。
- 「ものづくりの国」日本: 中国は東側陣営で、世界市場には参入せず。韓国や東南アジアは政情が不安定な親米独裁政権。日本以外に取るに足る「世界の工場」がなかった
- 豊富な若年労働力を活用できた人口ボーナス期(1950年～1990年)
- 一方で現在は人口オーナス(負荷)期(社会保障費の増大と若年労働力の減少)



# 20世紀型想像力

- 『未来少年コナン』(1978年): 未来都市国家「インダストリア」の地下に隠された巨大爆撃機が動き出すことを伝えるために、飛行装置でコナンたちは仲間のもとへ急ぐ
- 巨大爆撃機、ロボットなど移動技術は大きく進歩しているのに、情報通信技術は1978年当時のまま
- 2013年の発想「危険を伝えたいなら携帯電話を使えばいい」
- 20世紀型想像力: 工業製品の普及や進歩によって実現される明るい(暗い)未来
- 自動車が空を飛び、ロボットが原子力で動き、宇宙服のようなデザインが普及し、チューブ式の食糧を食べる人々

# フロンティアは指先に

- 工業化社会の夢(20世紀型想像力)の敗北と、ポスト工業化社会(21世紀型リアリティ)の到来
- 超音速旅客機コンコルドの退役(1969年-2003年)
- ホバークラフト民間定期航路の廃止(日本では2009年、イギリスでは現在も運行中)
- 「自動車を買わない若者たち」
- 「大きいこと」「速いこと」「遠くまで行くこと」「No.1であること」は20世紀型想像力における夢にすぎない
- 現代におけるフロンティアはインターネット空間など低廉で実現されるサービスの先にある。巨額の費用をかけて宇宙なんて行かなくても、Twitterの中には日々ドラマが生まれている。

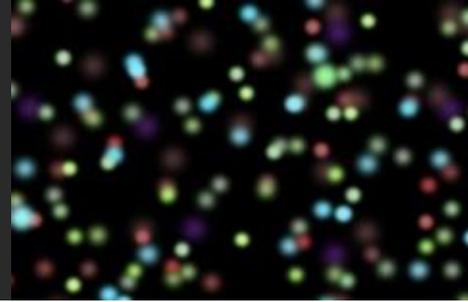
# 宇宙屋さんとインターネット屋さん

- 人類の無限の発展可能性を信じる(人類は様々な困難を超えてきたし、これからも超えていくことができる)
- 「近代」(伝統に縛られず、神に頼らずに「国民」「個人」として自立した存在として引き上げようとしたプロジェクト)
- 日本における近代化=「経済成長すれば何とかなる」モデル(19世紀後半にヨーロッパの産業革命を目撃し、それを日本に移転しようとした)

# それにひきかえ宇宙は...

- 長期間滞在すると筋肉や骨が弱る
- 原子力発電所一つの管理さえうまくできない人類
- 山積する社会問題、深刻な財政状況。ロマンは僕たちの胸を高鳴らせるけど、ロマンで社会問題は解決しない。高度成長を終えてしまった日本における宇宙開発の必要性
- そもそも社会に夢や希望やロマンは必要なのか？(社会的に提供される希望に翻弄されてしまう人々の存在)
- 「科学技術がどこまでも進歩する」「今日よりも明日がよくなる」という発想が共有できない時代においてかつてフロンティアだった宇宙が、時代遅れになりつつあるのではないか

# これからの宇宙はどこへ



- 新しい中世か、再国家化か、もしくは？
- 「国家」にしかできないこと(たとえば原発管理)

新しい中世

グローバル企業、テロリスト、  
国際NGO、国家など、有象無  
象の意思決定主体

OR

再国家化

エネルギー戦争、水戦争に対  
する国家資本主義、社会保障  
など「国家」にしかできないこと  
の前景化

なんで宇宙なんていくの？